

公共図書館におけるマルチメディアDAISY図書の普及を図るための5つのポイント

専修大学、川村学園女子大学 講師
成松 一郎

公共図書館が電子書籍に寄せる期待とは

一般社団法人電子出版制作・流通協議会（電流協）は、社団法人日本図書館協会の協力を受け、2013年4月3日～5月31日、全国360の公立図書館にアンケート調査を実施しました。

この調査によると、回答があった225館のうち、すでに電子書籍サービスを実施している図書館は17館（8%）、具体的に実施する予定がある館が7館（3%）とわずかでしたが、実施検討中は79館（35%）にのぼり、関心が高いことがわかります。

アンケートの中で最も注目すべきことは、電子書籍の導入にあたり、期待するサービス対象者として、非来館者（68%）、ビジネスパーソン（62%）に続いて、障害者が61%と高い値となっていることです。

また、電子書籍に期待する機能としては、「文字拡大機能」（76%）、「音声読み上げ機能」（73%）、「文字と地の色の反転機能（読書障害対応）」（57%）

と、アクセシビリティ機能に注目が集まっていることが特筆できます。

伊藤忠記念財団が制作を続けているマルチメディアDAISY図書は、これらの機能をすべて兼ね備えているだけでなく、音声読み上げも肉声による朗読データを使っていることから、利用者である子どもたちにとっても、非常に使い勝手のよい電子書籍となっていますので、公共図書館における活用が大いに期待されます。

ところが、現状では、特別支援学校での取り組みに比べ、公共図書館でマルチメディアDAISY図書を活用する動きはまだスタートラインに立つか立たないかというレベルにとどまっていると言ってよいと思います。

それでは、公共図書館におけるマルチメディアDAISY図書について、どんなことがバリアとなっているのでしょうか。

この項では、いくつかの図書館にヒアリングした結果などをもとに、考察してみたいと思います。

公共図書館で利用されていない理由と普及を図るためのポイント

(1) タブレット端末導入の遅れ

公共図書館へヒアリングを行う中で一番目立つ回答として、タブレット型端末導入の遅れが挙げられます。

図書館全体の予算計画の中で、マルチメディアDAISY図書を閲覧するために必要なハードウェアであるタブレット型端末（ノートパソコンでも可）の購入費目がなかなか計上できない。あるいは、現時点でタブレット型端末が1台4～5万円ほどするため、単純に購入のための予算がとれないという声がありました。

同様にタブレット型端末で再生するためのソフトウェア（Voice of DAISY）の購入方法がむずかしい（インターネットからのダウンロードは、図書館の決済の仕組みからできない）なども指摘されています。

実際に導入した図書館の話の聞いてみると、再生するためのソフトウェアをインストールした状態の端末を購入する（あるいはリースを組む）という手法をとっているようです。

(2) 貸し出し対象が2系統存在する

つぎに、ほとんどのマルチメディアDAISY図書が出版ではなく、ボランティアによる2次制作のため、利

用対象者に制限を加えているケースが多くあります。

伊藤忠記念財団が制作しているわいわい文庫の場合は、貸し出し対象がつぎの2系統に分かれています。

①貸し出し対象を「読書に障害のある人」に限定しているタイトル（137タイトル・約75%）

②貸し出し対象を「読書に障害のある人」に限定していないタイトル（45タイトル・約25%）

公共図書館の中には、「わいわい文庫」のラインナップ中に①のタイトルが含まれていることだけを理由に、「貸し出し対象を一部の障害者に限定するような媒体では、公共図書館が貸し出す電子書籍としてはふさわしくない」という意見を挙げ、「わいわい文庫」全体の寄贈を断っている（あるいは結果として死蔵してしまっている）図書館もあります。

しかし、きわめて基本的な公共図書館の理念として、黙っていても図書館利用してくれる利用者だけを対象にするのではなく、いわゆる「アウトリーチ」（なかなか図書館利用をしていない層に働きかけながら、利用者層を広げていくこと）を目指すためには、やはり特定の立場の人にとって利用しやすいメディアも意識的に（点数は少なくても）バランスよく揃えておくことも大事な図書館

の業務だと考えられます。

たとえば、点字図書が点字の読める人、韓国語の本は韓国語が読める人を想定して所蔵しているのと同様に、障害のある人のために、公共図書館がマルチメディアDAISY図書を所蔵することは、なんら特殊なことではないと思います。

(3) 図書館内で「読書障害のある利用者」に関する基準が定まっていない

先述のように、わいわい文庫ラインナップ中の①にあたるコンテンツについては、図書館側があらかじめ「読書に障害のある利用者」について一定の基準をもっていないと、運用がむずかしい面があります。

今回、実際にヒアリングを行った図書館の中から、基準に関する回答をご紹介します。

- これまでは、視覚障害、身体障害など障害者手帳を所持する方への郵送サービスが中心であった。知的障害、発達障害など目に見えない障害があり、手帳を所持していない人たちも、特別なサービスを必要としているので、登録基準を見直す必要があるのではないかと。
- 利用制限のある資料に関しては、利用したいとの申し出があれば、別紙申請書（2014年1月より使用）を提出してもらい、利用資格を確

認する。（資料1・資料2）

平成26年1月1日から
おおさかしつじょうしん しょう しょう
大阪市立図書館の障がい者サービスが変わります!! (写真)

大阪市立図書館では、身体的な障がいのため、思うように図書館の利用ができないという方々に対して、少しでも快適にご利用していただくために、いろいろなサービスを行っています。平成26年1月の図書館のコンピュータシステムの入れ替えにともない、サービス内容を一部変更します。

貸出点数が16点から20点へ
その内、AV資料（CD・カセット・DVD・ビデオ）は10点です。
CDのみ10点、DVDのみ10点でも貸出できます。
予約点数は30点まで、その内AV資料は10点までです。
CDのみ10点、DVDのみ10点でも予約できます。
貸出期間は、32日（前1ヶ月）以内です。

障がい者サービスはこんな方が利用できます
大阪市内・八尾市内にお住まいの方、大阪市内に通勤通学されている方で、障がいの障がいをお持ちの方は障がい者サービスを利用することができます。

具体的には
身体障害者手帳・療育手帳をお持ちの方、知的障害者の精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
大阪府立特別支援学校に在学している方、発達障がい認定を受けている方
発達障がい認定を受けている方、または特別支援学校に在学している方
その他、医療機関・福祉等関係機関からの証明書等をお持ちの方など

さらにこんなサービスも
※ **盲点資料をご利用ください!!**
視覚障がいなどで文字での読書が困難な方には、1冊の本をすべて録音した盲点資料を貸し出します。以下の3種類があります。
●「盲点カセット」 カセットテープ録音されたもの
●「盲点ディスク」 DAISY（フロン）という形式で開いた音源のもの。
●「マルチメディアディスク」 DAISYという形式で作った、音声と画像と文字の情報が収録されるもの
こんな方が利用できます
・視覚障がい、学習障がい、聴覚障がい、認知症による読書低下などにより文字での読書が困難な方
大阪市立図書館に所属していない盲点資料も、登録とごとの登録で作成されているは、無料でお貸出しします。お電話でご相談ください。

※ **図書郵送サービスをご利用ください!!**
障がいの障がいにより図書館へ来店できない方に、日本郵便の精密（第4種郵便・必着）郵便専用ゆうメール）を利用して、自宅まで資料をお送ります。
もちろん、図書館への資料の返送も郵送できます。
（郵送サービスを利用するには、登録申請が必要です。）
具体的には 一冊送できる資料と利用可能な方
図書・雑誌の郵送 ※身体障害者手帳・療育手帳（注：認知症・痴呆症）
児童書 絵本等紙の本、図鑑、児童書等、CD（AV資料を除く）
別冊者※ 視覚障がい 1～2冊、聴覚障がい 1～2冊、認知障がい 1～3冊
録音資料の郵送 ※特定障害者等認定書※ 利用※（無償での貸付）
別冊者※ カセットテープ・CD・ディスク
別冊者※ 視覚障がい 1～6冊
文字資料の郵送 ※身体障害者手帳・療育手帳（注：認知症・痴呆症）
別冊者※ 児童書、図鑑、活字つき絵本（絵本を除く）、さるる絵本
別冊者※ 視覚障がい 1～6冊
※上記に該当せず家財が貴重なのは、図書館に寄贈された資料は、サービス提供にお供できません。

※ **対面相談をご利用ください!!**
視覚障がいの障がいの方に対して、図書館の対面相談室で、希望の資料をお貸します。図書館の資料だけでなく、お手持ちの資料もお貸します。
こんな方が利用できます
視覚障がいの障がいにより文字での読書が困難な方
利用するには、事前に予約が必要です
・予約の際には、希望日・時間等、希望の資料をお貸します。
・資料の到着や返却が必要なのは合わせてお知らせください
資料をお貸しするのは、大阪府立図書館に登録している対面相談の方で、みなさんの情報の秘密を守ります。

※ **知覚録音サービスは、下記の図書館で行います。**
中央図書館・豊田図書館・住吉図書館・西淀川図書館・西成図書館
東淀川図書館・東区図書館・平野図書館

大阪市立中央図書館 障がい者サービス担当 TEL:06-6539-3304 FAX:06-6539-3335
障がい者サービスメインページ <http://www.oml.city.osaka.lg.jp/taimen/index.html>
平成26年1月27日（金）21時から、平成26年1月4日（土）（9時）まで、ホームページを修正します。
・平成26年1月、ホームページをリニューアルし、見やすくなりました。
・障がい者サービス専用ページの設置やホームページコンテンツの刷新など、新しいホームページをリニューアルしました。
・やさしい読みやすさを考えた、読みやすいホームページができました。

2013.11

資料1

**大阪市立図書館がい者サービス利用申込書
(郵送貸出兼利用対象限定資料貸出申込書)**

申込日：平成 年 月 日

図書館カード番号：
お名前（ふりがな）：（ ）

代理の方が手続き（登録・貸出含む）をされる場合、ご記入ください。
お名前（ふりがな）（ ）
本人との関係 同居家族 別居家族 親族 その他（ ）
ホームヘルパー⇒証明書番号、施設職員 施設名（ ）
本人とのコミュニケーション □可能 □不可能（連絡先）

大阪市・八尾市以外にお住まいの方はご記入ください。
□大阪市内で勤務 □大阪市内の学校に通学
職場名・学校名 学年 年
所在地住所：
電話：（ ） —

希望するサービスの口を塗りつぶしてください。
郵送による利用 □往復郵送 □貸出のみ □返却のみ
□雑誌・図書（大活字図書・布の本を含む）⇒心身障害者用ゆうメールを使用、重度の身体障がいのある方
□点字資料（点字付録本・さわる本を含む）⇒点字郵便を使用、視覚障がいのある方
□録音資料（カセットテープ・CD・デジジー）⇒特定録音物等郵便、視覚障がいのある方
□利用対象限定資料（視覚障がい者等用）の貸出（カセットテープ、音声デジジー、マルチメディア・デジジー、さわる本他）
□対面朗読

登録されている自宅以外に郵送を希望される方はご記入ください：
住所：〒 —
宛先
電話：（ ） —

その他留意事項
点字の使用 □可能 □不可能

※裏面もご記入ください

(4) マルチメディアDAISY図書の存在自体が知られていない

図書館の分野では、マルチメディアDAISY図書はそれほど特別なものではなく、図書館司書養成課程のテキストには間違いなく記述されていますが、一方で利用者にとっては、あまりなじみのないメディアであるのが現状です。

今回ヒアリングした図書館の中では、以下のようなPR事例が挙げられました。

- 図書館の利用案内に、マルチメディアDAISY図書の利用について記載する。
- マルチメディアDAISY図書所蔵リストを製作する。ウェブサイトにアップするほか、関連行事の際に配布する。
- マルチメディアDAISY図書のコーナーを設置する。

障害者手帳をお持ちの方は1を手帳を持っていない方は、2から4のいずれか該当の乱をご記入ください。

1	身体障害者手帳 1・2種 級 番号： 障がい名：
	精神保健福祉手帳 級 番号：
	療育手帳 A B1 B2 番号：
2	医療機関・医療従事者からの証明書がある 病院名： 証明内容： 福祉窓口等から障がいの状態を示す文書がある □介護認定 要支援 介護 度 □難病指定 □自立支援 □その他（ ）
	学校・教師から障がいの状態を示す文書がある □支援学校の生徒手帳 学校名： 職場から障がいの状態を示す文書がある
3	学校における特別支援を受けているか受けていた 学校名： 支援内容：
	福祉サービスを受けている 支援内容： ボランティアのサポートを受けている 支援内容：
4	家族やヘルパーに文書類を読んでもらっている
	活字をそのままの大きさでは読めない
	活字を長時間集中して読むことができない
	目で読んでも内容が分からない、あるいは内容を記憶できない
身体の病状状態やまひ等により、資料を持ったリページをめくったりできない	
その他、原本をそのままの形で利用できない	

受付確認欄		
受付館	受付者	証明書の確認



写真1
福知山市図書館のマルチメディアDAISYコーナー

- 図書館行事として、マルチメディアDAISY図書読書体験会を開催する。
- 「小学校のための本のバザール」（小学校の学校図書館を対象に、図書館で使命を終えた本を提供している）や図書館子どもまつりなどの会場で、マルチメディアDAISY図書のデモンストレーションを行う。



写真2
黒磯図書館でのマルチメディアDAISY体験会

- 特別支援学校や障害者就労支援施設、社会福祉協議会などに紹介する。

(5) 読書に障害のある子どもの読書をサポートできる人材が不足している

図書館職員に対する研修のほか、図書館に関わっている各種ボラン

ティアや、特別支援学校教員、保護者などを対象に、読書障害のある利用者の特性やニーズを正しく理解し、実際にパソコンやタブレット型端末を使って読書する方法などをサポートする人材を養成するための講習を開催したい、あるいは開催してほしいという声が多く挙げられました。

伊藤忠記念財団では、毎年全国で「読書バリアフリー研究会」を開催しています。2013年度は、東京・大阪・仙台・広島・島根・福岡で開催し、のべ236名の方に参加いただきました。2014年度も各地で開催を予定しています（写真3）。



写真3
広島市中央図書館での読書バリアフリー研究会

各図書館の取り組み

黒磯図書館（栃木県那須塩原市） 伊藤忠記念財団主催の「読書バリアフリー研究会」に参加したボランティアが、地元の図書館に「わいわい文庫」を紹介し、必要とする市民への周知に取り組んでいる。
1) 主な取り組み ①図書館員、市議員、市の生涯学習課職員への体験会の実施。 ②貸し出し準備（CDを1タイトルごとに分冊）。 ③一般市民向けの体験会の開催、図書館子どもまつりでの体験会。 ④障害者就労支援施設への紹介。
2) 体験会の様子 元小学校の校長先生が参加し、「支援学級で有効だと思う。知り合いの教師にPRをする」とのお話がある。また現職の小学校教諭は、支援学級や通級指導を受けている子どもへマルチメディアDAISY図書の利用を検討していたので非常に参考になったとCDを数枚借りた。他にも読むことに困難がある父子がさまざまな作品を視聴し、数枚借りた。また知的障害のある方は、画面と一緒に文字をたどりながら発声し、長時間楽しんでた。
3) 今後の課題 ①市の関係者にも認知され始めているので、より周知が進む努力が必要である。 ②活用方法の学習を展開することも有効と考える。 ③現在はボランティアグループ「アイサポート那須」が活動の主体となっている。今後は市や図書館の事業となるように働きかけたい。

鎌倉市中央図書館（神奈川県鎌倉市）
1) 主な取り組み ①図書館職員の視聴会を実施し、操作方法と内容の確認を行う。 ②対象者及び障害者支援施設職員への視聴を実施
2) 体験会の様子 軽度の知的障害があり漢字の読み書きが困難な19歳の女性に視聴してもらう。視聴しての感想としては、「絵があって読み上げてくれるので、一人で読むよりわかりやすい。一人で読んでいると、どこを読んでいるかわからなくなることもあるが、ハイライトがあるので困らなかった」とのことであった。 また「絵本は私には簡単すぎる。絵だけの紙芝居よりも文字があった方がわかりやすい」との希望があった。すべての作品にルビをつけると利用者が増加するのではないかと思う。
3) 今後の課題 視覚障害者だけでなく知的障害の方にも有効であると感じた。サービスの対象が広がる可能性を感じたので、今後は利用登録の見直しを考えていきたい。特別支援学級の生徒への利用等も考えられるので、教職員が研修に図書館へ来る際などには、マルチメディアDAISY図書を体験できる場を提供したいと思う。

千葉県立西部図書館（千葉県松戸市）

1) 主な取り組み

- ① 6月、10月、1月に計3回の講座を開催。対象は県内の特別支援学校の教員、市町村図書館、ボランティアなど。6月は「特別支援学校図書館の現状と課題」について。10月は実際に活用している都立特別支援学校の先生による実践編。1月はタブレットなど電子書籍端末の活用について。
- ② 全国で制作され、入手可能なマルチメディアDAISY図書の情報を集め、現時点で約600タイトルが制作されていることがわかった。それらが館内閲覧できるような環境整備を進めた。
- ③ 県教委ニュース、相互協力ニュース（県内の市町村図書館向け）に講座案内などを掲載。
- ④ 県内に3館ある県立図書館に、障害者サービス用iPad各3台、iPod touch各2台を館内閲覧用に導入。
- ⑤ 県内の特別支援学校にアンケート調査を実施し、希望があった学校には、図書館スタッフが訪問し、読み聞かせやマルチメディアDAISY図書の紹介などを行った。

2) 今後の課題

ひきつづき特別支援学校への情報提供や研修の機会を設けるとともに、希望がある特別支援学校への訪問事業も継続していきたい。

大阪市立中央図書館（大阪府大阪市）

1) 主な取り組み

- ① 寄贈されたCDを図書館資料としてデータを作成し、登録、管理。
- ② マルチメディアDAISY図書所蔵リストを製作し、ホームページに掲載。関連行事の際に配布。
- ③ マルチメディアDAISY図書読書体験会の実施。
- ④ 小学校図書館担当者が集まる場面（本のバザール）でのデモンストレーションの実施。

2) 今後の課題

マルチメディアDAISYの所蔵数が少なく、貸し出し回数も非常に少ないことが課題である。また当事者への周知も十分とは言えない。マルチメディアDAISY図書の蔵書数を増やし、本を選べるようにすること、興味を持った人が誰でも利用できるように、利用制限のない作品を増やしていくことが必要である。

福知山市立図書館（京都府福知山市）

1) 主な取り組み

- ① 図書館内にタブレット端末を通し、来館者がマルチメディアDAISY図書を体験。
- ② 小学校のこたばの教室にタブレット端末を貸し出し、マルチメディアDAISY図書の効果を検証。

2) 今後の課題

図書館の展示では、大勢の方にマルチメディアDAISY図書を体験していただくことができた反面、マルチメディアDAISY図書が削除される、端末にロックをかけられるトラブルもあった。今年6月下旬の新図書館中央館の開館時に、マルチメディアDAISY図書を知っていただく取り組みと、障害のある子どもたちのニーズとマルチメディアDAISY図書の効果を把握し、すべての人に届けられる図書館サービスの構築を福知山からはじめたい。また、その成果と課題をもとに、伊藤忠記念財団へ作品の改善案を提示したい。